

明治 32 年の薬剤師国家試験問題

薬学雑誌 208 号 620-625 頁(1899)より

当時試験は年 2 回大阪と東京で行われた。学科試験は 5 科目。6 月 8, 9 日, 東京での試験問題は以下のとおり。難しいのか簡単なのかよく分からない。合格率からすると難関である。

物理学 (1)物の重さは地面下に降るに従って減却し地球中心にありては零なりといふ其理如何。

(2)大気中の水蒸気の多少を検定する法

化学 (1)明礬の種類, 製法ならびに性状 (2)アルコールの通性

生薬学 (1)安息香 (2)耶僕蘭日葉

植物学 (1)植物の蒸発器とは何ぞや (2)十字科植物の特徴

製薬化学 (1)過マンガン酸カリの製法, 性状, 鑑識 (2)蟻酸の製法, 性状, 鑑識

133 名出願, 欠席 20, 途中退席 14, 試験完了 99 名。合格者 18 名。

この 18 名に加えて実地試験出願者 11 名で 6 月 14 日から 4 日間にわたる 2 次試験。分析術(担当:丹波), 薬品鑑定(下山), 薬物精鍊(高橋), 調剤術(山田), 志願者 29 名で途中退席 2 名, 合格者 16 名。

大阪の学科試験は 6 月 1 日, 2 日, 71 人出願, 合格 15 名。

物理学 (1)遠心力とは何ぞや (2)飽和蒸気の張力と温度の関係如何

化学 (1)砒素の検出法, アンチモニウムとの区別 (2)アルデヒドの通性

生薬学 (1)攝涅瓦根 (2)苦扁桃

植物学 (1)根と茎との区別および根の種類 (2)橙科の通徴およびこの科に属する薬用植物

製薬化学 (1)金硫黄の製法に何種ありや, および其の方法の大要を問ふ (2)斯篤利幾尼涅(strichinine)を香木鼈より製するの法如何

実地試験はなんと 6 日間, 実地からの参加者 11 名を加え 26 名受験。合格者 16 名の名簿には, 士族, 平民の区別がある。

小林 力